

多摩織の復興に向けたビジュアル・アイデンティティ研究

Visual Identity for the reconstruction of Tamaori fabric

小嶋 音色

指導教員 李 盛姫

サレジオ工業高等専門学校 デザイン科 ビジュアルコミュニケーション研究室

八王子の伝統工芸品である多摩織が現在は、他企業などへの提供が主流となっている。多摩織としてのブランドで存在し続けることが、伝統工芸品としての存在意義があると考え。多摩織のブランド化を図り、新たな市場の開拓を目指す上で、調査、分析、提案を行う。

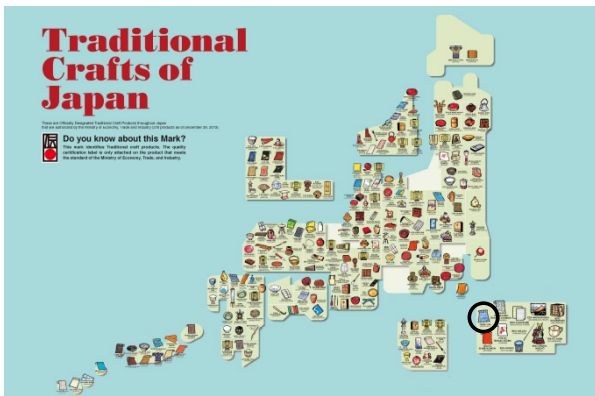
キーワード：八王子地域、伝統工芸品、多摩織、ビジュアル・アイデンティティ

1. 研究目的

伝統工芸品として守り続けられてきた織物である“多摩織”が昭和45年を最盛期にそこから落ち込んでいる。本研究では、多摩織としてのブランドを見直し、もっと身近なものになるように利用範囲を広げ、新たな市場の開拓することを目的としたVI(ビジュアルアイデンティティ)を開発する。

2. 調査内容

多摩織とは、八王子地域の伝統工芸品で長い間守られてきた織物である。用途によって、五つの織技術を巧みに使い分けることを主な特徴としている。織り方は、織細でありながら丈夫である。また、伝統的工芸品産業の振興に関する法律により経済産業大臣が指定した伝統的工芸品につけられる証紙である「伝統証紙」がつけられている。以下の地図は、伝統証紙がつけられている伝統的工芸品らである。多摩織は、円で囲まれたところに位置する。



現在の多摩織の活躍場としては、Google×Levi'sが共同開発をした製品の技術提供、イッセイミヤケやヨウジヤマモトなどの高級ブランドへの商品提供、著名人へのファッションアイテムの提供、そして高尾山の山頂にあるカフェ『高尾山スミカ』の2階吹き抜け部分から吊り下げられた大行燈も手がけた。



津井織物工場にて織物を織る様子



多摩織(風通織)



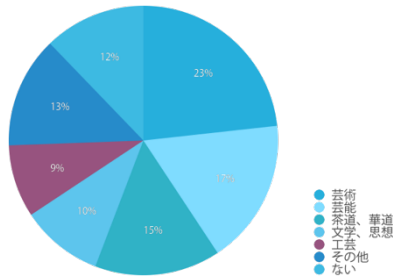
高尾山スミカにて吊り下げられた

しかし、大衆からの知名度はまだ低く、多摩織の現状の問題として、以下のことが挙げられる。

- (1) 若年層が工芸品に興味を持っていないこと
- (2) 知る機会が少ない事
- (3) 服飾業界が工場生産に移り変わり、織や染めの需要が少なくなった事
- (4) ほとんどの作業が手作業であるため工芸品の単価が高価になってしまう事

以下のグラフは、内閣大臣官房政府による世論調査である。100%のうち工芸品を支持するという意見がわずか10%にも至らない結果である。いかに工芸品へ関心が少ないかがこの円形グラフから読み取れる。

「伝統文化」として古くから伝わるもので愛着を感じるものが何かありますか



内閣大臣官房政府による世論調査より

また、“多摩織”として売られている商品が少ない。つまり、技術や製品は、他ブランドへの提供が主流である。一般の人に直接関わるような製品が少ない。もっと身近なものにするために、新たなブランディングが必要だと考える。

3. アイデア展開

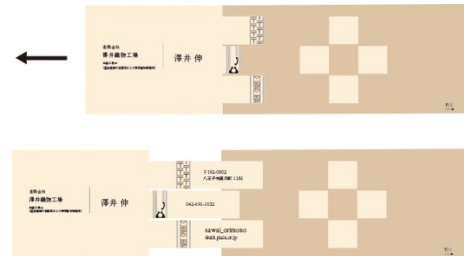
本研究では、ブランド構築を図る上でターゲットを若年層（20代～40代）とした。多摩織は伝統工芸品であり、日本の文化や歴史や大切な部分を担っているため、本来の姿に拘りを持って提案していく。しかし、伝統工芸品に興味を示さない若年層を振り向かせるには、彼らの～美意識～研究をし、提案する必要がある。モダン要素を組み合わせ、ターゲットと多摩織との間の溝を埋めていくようなアイデアを展開していく。

4. 現段階での最終提案

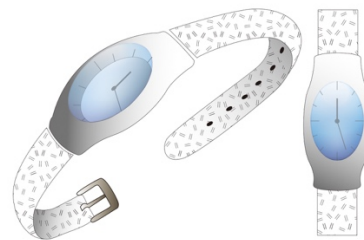
多摩織のブランディングをするにあたり、以下のようなものを提案する。ロゴ・マークにおいて、多摩織の特徴である五つの織技術を五つの線で表現している。また、日本の工芸品であるため、日本の国旗に赤を使用している。八王子地域の伝統工芸品であることを表現するため、抽象化した地域に形を交えた展開も行った。



ビジネスカードは、視覚、触覚の感覚が印象を左右するものである。その感覚にあえて、動作を加えることで得られる印象をさらに大きいものにする。今回仕掛けた動作は、情報をあえて隠し、両端を掴み横に引っ張ると情報が見えるというものである。



多摩織の五つの織技術の一つで風通織（ふうつうおり）がある。この織り方は、比較的通気性の良い織物である。その特徴を生かし、時計のベルト部分に使えないかと考えた。従来の製品は、丈夫さを重視するため蒸れやすい素材が使われていることが多い。風通織の丈夫さと通気性の良さを生かした腕時計を提案する。



5. 今後の展開

今後の展開としては、多摩織の第一人者の方（澤井伸さん）にロゴタイプ、シンボルマーク、ビジネスカード、時計のベルトなどの提案物の意見を伺い、最終提案に向けて進めていく。

5. 参考文献

(1) 澤井栄一朗, 多摩織 繊維と工業 Vol. 61 (2) 内閣府大臣官房政府広報室世論調査 (3) 「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」に基づいて経済産業大臣により指定されている日本の伝統工芸品 (225品※1) の一覧

